

奈良マラソン開幕

奈良マラソン2017は平成29年12月9日、奈良市法蓮佐保山4の「ならでんフィールド」で開幕した。

この日は開会式と3kmジョギングを実施。併せてマラソンと10kmのランナー受け付けが行われた。

大会には、この日の3kmジョギングとマラソン、10kmに計約19,000人のランナーがエントリー。10日は午前9時にマラソン、同9時30分に10kmの号砲が鳴る。

奈良マラソンは2017年で8回目。マラソン、10kmのランナー受け付けは午前10時から始まり、参加者が次々と来場、ナンバーカードや記念Tシャツを受け取り本番に備えた。

開会式は午前11時30分からEXPO広場特設ステージで行われ、大会会長の荒井正吾知事が「よい天気となり、この空気、この雰囲気を楽しんでください」とあいさつ。大会副会長の仲川元庸奈良市長、並河健天理市長も歓迎の言葉を述べた。

続いて、大会を盛り上げるスペシャルゲストのバルセロナ五輪の銀メダリスト、有森裕子さんが登壇。招待選手らの紹介の後、全参加者を代表して平田治さん(Team奈良)が選手宣誓した。

EXPOエリアでは県の特産品、スポーツ用品が販売され、全国各地の自慢グルメが軒を連ね、受け付けを終えたランナーらが次々と訪れていた。

午後からは、ならでんフィールドで有森さんのランニングクリニックが行われ、ウォーミングアップの方法や奈良マラソンコースに適したランニングなどを熱心に指導。同2時15分には3kmジョギングがスタート。約1,500人の小学生以上のランナーや家族連れらが晴天の奈良電力鴻ノ池パーク内の特設コースを駆け抜けた。



EXPO

主会場の奈良電力鴻ノ池パークでは、すべての来場者が楽しめる併催イベント「奈良マラソン2017EXPO」がオープンした。

県内の特産品を含め全国のグルメを味わえるゾーン、大会公式グッズやランニング用品などの販売ゾーン、奈良の魅力を紹介するゾーン、協賛企業の出展ゾーンに計76のブースが並び、初日から盛況となった。

奈良市の主婦、姫野富美子さん(75)はEXPO会場を目当てに夫婦で来場。「ランナーの姿や会場の活気に元気をもらえる。食のブースもたくさんあるので、今年は何をいただくかと楽しんでいる」と笑顔で話した。



開会式

EXPOエリア・イベントステージで行われた開会式は、畿央大学アイドルコピーダンスユニット「ばんびっ子」の3人の元気いっぱいの歌とダンスでスタート。

続いて大会会長の荒井正吾知事が、奈良県のマスコットキャラクター「せんとくん」とともにステージに立ち、「好天に恵まれ、奈良の空気を存分に吸って思いっきり楽しんでください」とあいさつした。

大会副会長を務める奈良、天理の両市長もあいさつし、仲川元庸奈良市長は「海外からの参加者も増え、元気をいただいております。温かいおもてなしで応え、冬の大和路を存分に楽しんでもらいたい」。並河健天理市長は「天理市のフルの折り返しでぜんざいが食べられるかどうか、完走の目安とも。山の辺の悠久の歴史を感じてもらいたい」などと歓迎の言葉を述べた。

バルセロナ五輪銀メダリストでスペシャルゲストの有森裕子さんも笑顔で登壇し、「今年も来ました。一緒に盛り上げましょう」と元気に呼びかけた。

この後、招待選手の紹介があり、選手宣誓が行われた。



選手宣誓

開会式では、男女の招待選手の紹介に続いて選手宣誓を実施。前年の第7回大会でマラソン男子総合優勝に輝いた平田治さんが壇上に登場、出場選手17,500人を代表して大会での健闘を誓った。

平田さんは、ポケットから取り出した大会ポスターを掲げ、そのキャッチフレーズに掛けて「Run Run (ランラン) と踊る心で魅惑のハードコースを楽しみつくすことを誓います」とユーモアたっぷりに宣誓。会場からは大きな拍手が湧き上がった。



3kmジョギング

海外からの出場者33人や車いすランナーを含む約1500人が、観客席からの声援を受けジョギングを楽しんだ。

事前にスペシャルゲストの有森裕子さんや松井絵里奈さんと一緒にウォーミングアップをしたランナーは午後2時15分、並河健天理市長の号砲と同時に競技場トラックスタート。各自の力量ごとに「早い」「マイペース」「ゆっくり」に分かれ、思い思いのペースで完走を目指した。

1番でゴールテープを切ったのは生駒市の野々口倫由代さん(13)。

バスケットボール部に所属する中学2年生。2年前に出場したときから大きく順位を上げた。



熱走、感動 42.195km

12月10日、ならでんフィールドを発着点に、フルマラソンと10kmが行われた。両レースに国内外から合わせて約16,000人が出場。フルマラソンは男子総合で初出場の原由幸さん(22)＝神奈川県＝が優勝、女子総合はフルマラソン初挑戦の武津さなえさん(21)＝奈良県三宅町＝が制した。

10km男子総合は兼重優介さん(28)＝神奈川県＝が初の栄冠。同女子総合は大井千鶴さん(24)＝奈良県奈良市＝が大会新記録で初優勝した。

同大会は平城遷都1300年記念事業として始まり、2017年が8回目。大会当日の奈良市は最低気温2.5度と早朝こそ冷え込んだものの、日中は暖かな日差しで、応援の観衆にも過ごしやすい日和となった。

午前9時、大会会長の荒井正吾奈良県知事の号砲でフルマラソンが出発。続いて同9時30分には10kmもスタートした。

フルマラソンは平城宮跡、興福寺など世界遺産を体感し天理市内で折り返す、歴史と自然を満喫するコース。

多くのボランティアがランナーをサポート、沿道の市民が熱い声援を送った。

バルセロナ五輪メダリスト、有森裕子さんも参加。ゴールを目指すランナーと並走したり声を掛け、励ます場面もあった。



スペシャルトーク「なるほど肝炎！」@奈良マラソン

EXPO会場の特設ステージでは、奈良県立医大の吉治仁志教授と、天理大学出身の柔道家・篠原信一さんが「なるほど肝炎！@奈良マラソン」と題してミニトークを繰り広げ、C型肝炎の早期発見へ健診受診を勧めた。吉治教授は肝臓について、病気で機能が56割まで低下しても症状が出にくいと説明した上で、県内の場合は「C型肝炎の検診受診率が都道府県で全国最下位」と指摘。篠原さんは「早期発見が一番。皆さん、すぐに検診に行ってください」と呼びかけた。



台湾マラソンと交流

平成27年から始まった台湾マラソンとの交流事業が定着、広がりをを見せている。

今大会には台湾マラソン管理協会からメキシコシティー五輪陸上女子80m障害銅メダリストの紀政・名誉会長や許茂煌理事長らが出場。さらに今大会のマラソン男女の優勝者ら6人が来年、台湾・宜蘭県で開かれる同マラソンへ派遣され、日台交流を深める。

台湾マラソンはランニングを通じた健康意識の普及や地域活性化を目的に平成27年に始まった。毎年、開催地を限定せず、台湾各地を巡回して開いている。台湾でも日本同様、マラソンブームで同大会も人気を集めているという。

両大会の交流は同年から始まり、許理事長らが奈良マラソンに出場。翌年から台湾マラソンに奈良マラソン男女上位選手を中心とした選手団が派遣され、2年連続で奈良勢が男女アベック優勝を飾っている。

今大会の10kmに出場した紀さんは、昭和43年に開かれたメキシコシティー五輪の陸上女子80m障害に台湾代表で出場して銅メダルを獲得。同45年には当時の世界記録を更新するなど、世界のトップ選手として活躍した。現在は台湾総統府国策顧問も務めている。

9日の開会式であいさつした紀さんは「マラソンを通じて日本のみなさんと交流を深めたい」と日台交流のさらなる発展を願った。

次回の台湾マラソンへはマラソン男子1位の原 由幸選手と女子1位の武津さなえ選手のほか、男女の奈良県1位選手と抽選で選ばれた男女各1人の選手を派遣予定。同マラソン管理協会の許理事長は「開催地の宜蘭県は山と海の自然に恵まれた素晴らしい場所。ぜひ、多くの人に台湾に来てほしい」と話していた。

